初公開！幻の業界新聞『陶業時報』

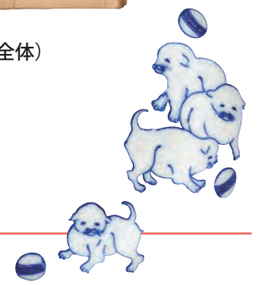
都市大阪は陶磁器の一大消費地です。かつては大阪の中心地域である船場の西に西横堀川という全長約 2.5km の堀割が通されていましたが、この西横堀川に面して陶磁器を扱う業者が集住して「瀬戸物町」（現在の大阪市西区）を形成していました。西横堀川は昭和 37 年（1962）に埋め立てられ、以降瀬戸物町の陶器商は減少に転じ、現在ではその町名も消滅してしまいました。

『陶業時報』は明治末期から昭和戦中期にかけて、陶器商であるつぼ善商店の店主御崎善右衛門によって発行された陶磁器業界紙です。陶磁器の消費地である大阪と生産地との関わり、流通構造、消費地における陶磁器の利用方法等が詳細に記録されており、その資料性は非常に高いものです。令和 3 年（2021）度に寄贈されたことを契機に、同紙の保存処理やアーカイブの推進など調査研究を進めています。

『陶業時報』の保存ならびに研究事業の推進にあたっては、2020・2021 年度出光文化福祉財団（現出光美術館）調査・研究助成および科学研究費助成基盤研究 C「『陶業時報』にみる大阪・瀬戸物町における陶磁器商の活動に関する研究」の助成を受けています。

『陶業時報』創刊号（部分）
明治 39 年（1906） 2 月 17 日刊

（全体）



［おもな参考書籍等］

- 橋本忠之『近代のいんばん手 ―その意匠と時代背景―』（2006 年、天空舎）
- 橋本忠之『「いんばん手物語」Part 1 小動物の巻』（2011 年、天空舎）
- 愛知県陶磁資料館編『阿蘭陀焼 : 憧れのプリントウェア ―海を渡ったヨーロッパ陶磁―』（2011 年）
- 「瑞芝録」（二代芝川又右衛門口述、木崎好尚筆記）
- 田中天涯編『大阪瀬戸物町の沿革』（1930 年、泉林藤七）

［表紙使用画像（上より）］ オランダ商館員図大皿・雪だるまに仔犬図小皿・文明開化文字図皿・大黒布袋図大皿（部分）
※表記のない作品は全て大阪歴史博物館所蔵

［特別企画展］ 橋本コレクション受贈記念 文明開化のやきもの 印版手

◎主　催／大阪歴史博物館
◎会　期／令和 5 年（2023）1 月 21 日（土）から 3 月 21 日（火・祝）まで
※火曜日休館。ただし、3月21日は開館します。

＼更新中／
INBANTE2023

大阪歴史博物館
Osaka Museum of History
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32
TEL.06-6946-5728 FAX.06-6946-2662
http://www.mus-his.city.osaka.jp/

INBANTE

橋本コレクション受贈記念

［特別企画展］文明開化のやきもの

印版手

OSAKA MUSEUM
OF HISTORY

大阪歴史博物館 6階 特別展示室

印版手（いんばんて）は、型紙や銅版転写（どうばんてんしゃ）などの技法で当時の風俗や流行を取り入れた図柄を陶磁器に転写するやきものです。大阪歴史博物館では、平成29年（2017）度に、印版手コレクターとして知られる橋本忠之氏が体系的、網羅的に収集した印版手作品1,129点の寄贈を受けました。本展では橋本氏の印版手コレクションから選りすぐった作品を展示します。印版手の多彩な図様が映し出す時代感をお楽しみください。

あわせて令和3年（2021）度に「瀬戸物町」（現・大阪市西区）の老舗陶器商・つぼ善商店から寄贈を受けた陶磁器業界紙『陶業時報』を特別公開します。

大阪歴史博物館
Osaka Museum of History

オランダ商館員図大皿
明治時代中期～後期　銅版

橋本忠之印版手コレクションに寄せて

印版手収集の面白さは、いろいろ語られていますが、第一に日用雑器として流通したものだけに、肩肘を張らず、背伸びもしないで向き合うことができるという気安さがあります。お小遣いの範囲で楽しめるとか、専門家の押し付けがましい講釈や、約束事にとらわれることなく、自分なりのお宝や、ストーリーを見つけ出すことが、心地よさにつながるのだと思います。

第二は、個々の作品の絵付け表現の面白さです。印版手の値打は「図柄のよさと、図柄に表された時代背景の面白さ」によって決まると言われています。新しい化学顔料と新しい絵付け技術によって可能となった、斬新な意匠の印版手は、正に窯業界の文明開化そのものです。印版手は「時代を写す鏡」「時代を秘めた玉手箱」と表現されるコレクターもいらっしゃいます。

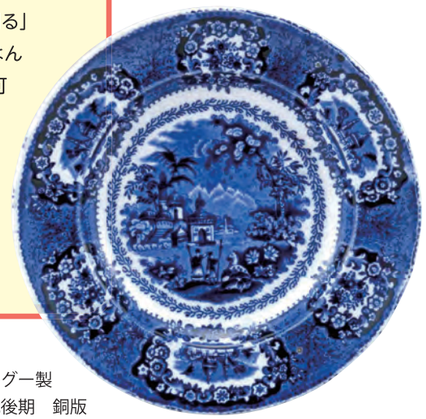
今回の特別企画展により、印版手の居場所が少しでも広がり、１人でも多くの方に、印版手について関心を持って頂ければ、これに過ぎるものはありません。

橋本 忠之

印判か、印版か

型紙摺絵や銅版転写技法によって絵付されたプリントウェアの陶磁器に「印判」の呼称を与えたのは料治熊太（1899～1982）であると言われていますが、橋本忠之氏は『近代のいんばん手　その意匠と時代背景』において、この「印判」という語は「印章」や「判子」のこと意味するため、プリントウェアに対して「印判手」と呼ぶと、あたかも「印章」や「判子」などと同様のスタンプ状の「はん」を用いて陶磁器の表面に図様を表出したかのような印象を与えかねない、という問題提起をしています。

「印」という漢字自体は、第一義的にいわゆる「はんこ」のこと、第二には「版で刷る」ことを意味します。続いて「判」という漢字には、文書などに押して、しるしとするはんこのほか、「ばん」と読ませて紙や本などの大きさの規格を示したり、物事の優劣・可否などを見分け定めることを言うとされます。それに対して、印刷に用いられる場合の「はん」は、「版下」など、「版」の語を充てる。つまり陶磁器を「印ばん」と呼ぶのであれば、「印判」というよりは「印版」の字を充てるほうがふさわしいのではないか、というのです。この提起を受け、大阪歴史博物館では橋本氏から寄贈を受けた1,129点の印ばん手を「橋本忠之印版手コレクション」と呼ぶことにしました。



阿蘭陀中皿　マーストリヒト、ペトルス・レグー製
鴻池家伝来　江戸時代後期　銅版

鴻池家に伝来したペトルス・レグー窯（Petrus Regout）の“オリエンタル”

江戸時代の大坂で、ある銅版転写のやきものが鴻池善右衛門家へ納められました。箱書に「阿蘭陀中皿　拾弐枚」と墨書される直径18cmほどの鮮やかな藍色の皿です。この皿はロゴマークからオランダ南東端部の都市・マーストリヒトに所在したペトルス・レグー窯（Petrus Regout、活動期：1836～99）の“オリエンタル”と呼ばれるシリーズのプリントウェアであることが判明していますが、入手経路は明らかではありません。当時の大阪には、長崎での貿易品である唐物の取り扱いがさかんな土地でもあったことから、唐物屋などから購入したと考えることができるかもしれません。中国の青花や日本の有田焼の影響によって18世紀中葉にイギリスで創始されたプリントウェアが大坂へと還流したかたちです。

日本における“プリントウェア”の受容と大阪

ヨーロッパ起源のプリントウェアは東インド会社が扱ったことから「阿蘭陀焼（おらんだやき）」と呼ばれ日本の窯業地においても驚きをもって迎えられました。京焼や伊賀焼、信楽焼などにおいて「阿蘭陀写（うつし）」という銅版画風の藍絵を手描きの染付で製作した陶器が焼かれ、また、幕末になると、肥前、美濃、瀬戸などの窯業地での型紙摺絵による絵付技法が再興、陶磁器の量産体制が整えられていきました。

こうした潮流の中で幕末の京都において銅版転写技法が試みられ、のちに鹿背山焼（かせやまやき）と呼ばれる銅版染付陶器が焼成されました。じつはこの窯の経営に関わったのが幕末から明治期にかけて関西財界に重きをなした百足屋又右衛門家の祖、初代芝川又右衛門（又平、1823～1912)であり、その製品は大阪や奈良を中心に流通したことがわかっています。

鹿背山焼　人物鳥獣図三ツ組丼のうち大丼
江戸時代末期　銅版　個人蔵

『陶業時報』第 387 号（部分）
昭和 13 年（1938）５月 15 日刊

幕末から明治時代にかけての大阪の陶器絵付

『守貞謾稿（もりさだまんこう）』「近制猪口（きんせいちょく）」（後集巻之一・食類）には、文政期頃（19世紀前半）から尾張で焼かれた白地の猪口が、江戸や大坂等に運ばれ「藍および諸彩金銀泥をもって、種々密画」を描く上絵付「きんがき（錦書）」が行われており、その流行は「藍」あるいは「金銀画」に移行した、とされています。

続く明治初期から中期にかけての大阪では、素地を美濃から取り寄せて上絵付のみを大阪で行う「大阪絵付（後絵）」が盛んに行われました。『陶業時報』（第387号）によれば、大阪では明治14年（1881）に「陶器画付工業者仲間」が組織されており、明治21年（1888）時点では仲間加入者は120名を数えるまでとなっていたようです。

川蒸気と天神橋図小皿　明治時代中期　銅版色絵

大阪で改良された銅版転写技法―「村上造」の皿

大阪は銅版印刷の盛行した地域でもあり、陶磁器への銅版転写の技法の開発、改良等に深く関与した人物も何人か輩出しています。一人目はかつて滋賀県甲賀市に本店を置いた陶器商・辻惣の大阪店の支配人・高木文五郎、二人目は「新式銅版（絵付）」を発明したという京都の銅版師・村上吉次郎（昇進堂）です。村上は高木の指導のもとで新式銅版の技法を改良し「本銅版」と称される絵付技法を開発したといいます。

じつは村上昇進堂が手掛けた「本銅版」と考えられる作品が橋本忠之印版手コレクションに現存します。つややかな黒線に彩色を加えた印版手で「村上造」の銘があり、いずれも大阪名所や近畿の名所が絵付されています。